宗像

毎月一日発行
定価一年 送料共500円
発行所
宗像大社
福岡県宗像郡玄海町
電話神湊26番

献上わかめの採取

一愈々近し一

今年の献上若布採取がいよいよ始まろうとしている。大寒までの暖冬異変によって、昨年同期よりも成育の状態がぐんと良いとのことである。

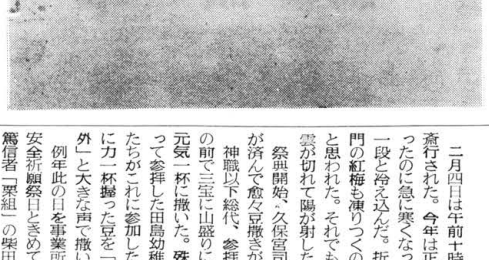
大島村に於ける献上若布についての集会のことは先月号に既報の通りであるが、去る一月十日、玄海町の辺津宮に於て「海洋神事奉賛会」の総会が招集された。宗像七浦の漁業協同組合長及び水難救済会宗像連合会長、各救済所長さんたちが新年の初顔合せをした。席上久保宮司より挨拶が述べられた。要約すると

一、昨年より当大社では古来からの皇室との御関係により特別に玄海の若布を献上することになり、皆様の御陰によって実現したことを喜ぶ。御神徳の然らしむるところとはいい乍ら、今に変らぬ神郡宗像の姿をここに見る事が出来て御同慶に堪えない。

一、今年もそろそろ時期が近付いているので、昨年にも増して皆様の誠心からなる御奉仕による若布を献上致たい。無論この事は永久に続けて行きたい事であるので、これが皆様の御世話にならねばならぬことであるが、現今の世相からして、由緒深き当大社を中心とする純朴な宗像郡民の、この若布献上という一つの事実を続けて行くことによって我々の生業が直接に皇室国家の繁栄安泰ということにつながるものであることを自覚し又世間に周知せしめることは、大いに意義のあることであると思う。しかも、この栄誉ある貴い御仕事を永久に続けて行けるのは、皆様を措いては無いものと云っても過言ではない。

宗像という処はこの様に特殊な土地柄であり、この特殊性、宗像大社を中心として国家民族意識を結果し高揚するという特殊性は非常に大切な事である。私は宗像を限りなく誇りとするものである。皆様のこの心意気というものは何物にも換え難い。

一、皆様の代に若布献上のことを始め、立派な成果をあげるこの事実を続けて行かれるならば、後進の若い人達に対する影響も亦計り知れないものがある。人つくりの根本は、先ず範を示すことにある。皆様が若布献上のために励む姿を残そうではありませんか。



という貴い御仕事に励む姿は、必ずや若い世代に対して国民としての在り方を再認識させるものと思う。皆様と神社側が一体となって宗像大神の御神徳発揚のため一段と拍手を送りたい。

宗像大社御用達
神祭具
装束
松島神輿製作所
京都市下京区北小路通新町西入
電話 (37) 八八六九番
振替口座京都一五八九一番

論説　故郷を造る

「私は去年の八月六日に日本を出発して、約四十日間ヨーロッパを廻って来ました。そして結局私が感じて来たことは、日本は良い国だなあ、ということです。そして日本は何と欠点だらけの国であることかということです」

これは浮羽郡の内山緑地建設株式会社の内山社長の談話を筆録したものである。

内山氏等一行十数名は昨年の夏、日本の殖林及び緑地造成関係の代表者としてヨーロッパを視察した。そして、一行の人々は夫々に或る感懐を持って帰国したのである。

一、日本は民主主義国になったのにあなた方は何故夫人を同伴しなかったのか。女をいたわれ。

二、日本は占領を解かれた立派な独立国家であるのに、何故今以て被占領体制を持続するのか。

三、われわれが戦後になってから知った日本の伝統的なあらゆるものは、すべて驚く程すばらしい。しかし、何故に日本人は外国の真似ばかりしたがるのか。

四、日本は戦争に負け、しばらく日本は占領されたのに、遂に国体を変えなかった。天皇制の存在はオランダ王室の伝統より長く、この点だけは尊敬に値する。

このオランダの婦人会長の雄弁には日本側はグウの音も出なかったという。内山氏の話は続いた。

古い伝統といえば、ヨーロッパは為政者の交替が激しく、近隣諸国の抗争等が続いた為に、ヨーロッパの民族や、国家は非常に鍛えられている様に思う。非常法的にといったのは、現代の欧州、殊に北欧諸国の完成された社会制度の在り方等が、夫々の国家民族の理想を追求した姿と見る事が出来るからです。

公園や街を歩いていても、パン屑を掌から小鳥に与えている人の姿が至る処で見られます。タバコを吸ってもマッチや吸い殻を捨てるのに困る程掃除が行き届いているのが普通です。街並木が八十粁も続いているスカンジナビヤ、その並木――主として柏の木でした――が皆五、六百年の大木でした。又ドイツのハンブルクの或る教会で五百年前から未だに建設続行中のものがありました。設計図は昔のままのもので、それを改めようとはしません。昔の人が追求した教会の理想的な形を、現在も引き継いで黙々と建築することにはげむ姿に何ともいえない感動を覚えました。

国家百年の大計、なんていいますが、百年の大計じゃ小さいと思います。せめて私共は、私共の使命とする仕事の上でも、五百年位将来のことを目標にしなくてはならないと思います。

日本に帰ってから改めて慎しみ又いとし日本を見直しました。北欧の端正な国民性と、その国民性に守られた自然美に較べて、日本のすべての何という違い方でしょう。日本人は自己中心の名誉慾の固まりなのでしょうか。私はそうは思いたくはありません。現代は人情も自然環境も余りに粗末に過ぎます。が、私共緑地造成者は、荒らされて行く自然美を補修し、更に造成して行くのが天職と思います。日本は元々美しく清浄な自然と、人情を持っているのです。私共は及ばず乍ら天職を通じて神様のお手伝いをしたいと思います。日本人の雌の心にもある故郷のイメージは美しい自然と、人情です。私は私の天職が何よりも有難いと思います。なぜなら、私共は日本人の故郷の山河を美しく造ることが出来るのですから。名はどうでもいい。五百年後に私共の造成した美しい緑が日本の山河を覆っであろうと考えると、私は幸です。

（文責編輯部）

×　×

和やかに節分祭

二月四日は午前十時、節分祭が斎行された。今年は正月中暖かかったのに急に寒くなって、当日も一段と冷え込んだ。折角開いた神門の紅梅も凍りつくのではないかと思われた。それでも朝から時折雪が切れて陽が射した。

祭典開始、久保宮司の祝詞奏上が済んで愈々豆撒きが始まった。

神職以下総代、参拝者達が神門の前で三宝に山盛りにした福豆を元気一杯に撒いた。殊に、工度揃って参拝した田島幼稚園のよい子たちがこれに参加した。小さな手に力一杯握った豆を「福は内鬼は外」と大きな声で撒いていた。

例年此の日を事業所の春季交通安全祈願祭日ときめている戸畑の篤信者「栗組」の柴田社長らも来合わせていて祭典に参列、豆撒きに也殊の外の張り込み様であった。神門前に整列した栗組の大型トラック三台は手頃な目標になって福豆のつぶてを浴びた。

終ってから、幼稚園のよい子たちに改めて福豆の袋と、お菓子が渡され、喜々として退社した。

昨年までは殆んど神職だけの祭事の観があったがそれを今年からは久保宮司の発案によって参列者と共に楽しく豆撒きを行うことにした。

それが反映したのか、今年の節分祭は賑わった。元来新春のオニヤライの祭であってみれば、その地域社会に災害を斎らす精神的なもの、物質的なものを追い払うのが本義でなければならない。此の意味で殊更に派手な方法ではなくても今度のように老若男女が和やかに参加できたことはよかったと思う。

祭典後の直会の時には、総代さん方の話題は此の喜びで一杯であった。昨年の献上の時に上京した大島漁協の遠藤組合長、鐘崎漁協の縄田組合長らから改めて当時の感激が語られる等、新春の一日、和やかな歓談が続いたことであった。

大寒後にやって来た異常寒波によって、現在のところ若布採取は思う様に進捗していない。間も無く暖い日が続く様になるであろう。

宗像七浦とも満を持して待機している、といったところである。

務所の中に森厳な雰囲気が漂った。

続いて今年の会長として水難救済会宗像連合会長永島金作氏が、副会長として七浦の漁業組合長、幹事として各漁協の専務が決定された。幹事のうちの幹事長は大島漁業組合の古川専務と決定した。

若布の成育が案外良いという。此の分なら今年は去年よりも少早目に献上が実現するかもしれない。

会議の後、例によって祝宴に移

阿蒙少言

そろそろ若草が萌えだした。そろそろ春の衣裳を着ければなるまい○恋愛結婚がよいか、見合結婚がよいか、と若い人達の質問。それは愚問であろう。恋愛がはじまれば、恋愛結婚になろうし、そのチャンスがなければ、見合結婚になろう。どちらでもない方式の結婚をした人もある○俺は右翼だ、お前は何だ、と啖呵を切られた。私はまん中でありますと返事した。右翼さんだけが愛国者ではない。軽率な憂語や、宣伝ビラだけでは国家民族の繁栄は望めない○二宮金次郎は薪を背負って歩きながら書物を読んだ。米をつきながら学問に精励した。と語っても、今の学徒はこんな話を受けつけない。交通事故を起すではないか、よほど頭の回転が悪かったのではないか、との反論を聞いた。さもありなん時代は大きく変化している。但し敢斗精神だけは学んで欲しいもの○こいは静寂の禅堂、突如として警策が肩を打った心身ともに凍るような冥中坐禅に居眠をした不覚に、雲水の一喝。何かをつかむことは難しいもの、と先哲高僧が説いている。人生の実相は神の声を聴く外はないか。○明治以後、欧米諸国は優れた物質文明を東洋にもたらした。然し精神文化は必ずしも彼等に一日の長があるとも見られない。伝来の物質文明の諸相が拝外思想を生み、殊に戦後やって来た英語を酷り外人兵を秀れた民族と誤認する風潮が増加した「英語に感心する ことはない。ロンドンでは乞食でも英語を話すョ」と若人達の前で放言すれば、爆笑○あいつはタダの狸ではなさそうだ。イイエお粗末なタダの狸でございます。狸は小心正直な動物と学者が言う。ぽつぽつ狸になろう

（白雲）

第三五回　宗像大社献詠歌会詠草

二月一日　於社務所詠草到着順

神湊　隣船　俊
宗像の宮居の柱神さびて幣新らしきお正月かな

福間　井原　元彦
紙に書き紙を読むなり紙や神仏体なくも我は紙衣の子（春勅題）

村山田　吉田佐市郎
老いぬれば人の小さき親切が心の匹にしみてうれしき

津屋崎　麦野　時雄
暁闇の風にたとえ海梅が香を空府天満のみたらしにきく

福岡　高橋　昇
狭き門打ちてしやまむと徹夜する孫が姿に昔おもゆ

熊本　吉田　寧雄
成人となりし記念の松苗を吾子は植えたり神の御庭に

飯塚　萩本　夕照
古しめを焼きし炎にこがしたる正月の餅分けあひて喰ふ（左義長）

戸畑　田中ハツセ
六日にて従業員の顔そろひ明日より我の正月となる

宮田　片山　一
沈り日さす小舟に磨びかく安全旗そこをめぐりてダンプカーゆく

門司　永島　哲夫
身の疲れしみじみ覚え早春の日の射す部屋に午までを待つ

福間　瓜生　朝枝
やみミルク買ふべもなく共に餓えし吾子今日晴の成人の日を迎ふ（長男成人）

内浦　長畑　房江
たまさかにあけし窓先朝庭にぬれたる石がみどりに見ゆる

若松　大高　岩吉
神徳や仏の慈悲を授かりて今日健やかに暮す母とさ

東郷　小野角次郎
田島路の初詣で人ハイヤーの真正面の光頬にけつゝ

小野　花居
明けの春テレビ上なる菜の花の一際目立ち美の豊に

勝浦浜　永島　文子
元旦の光に開けば宗像紙古式祭りに父の影あり

江口　辻野　開造
この冬をらくにすごせと頒ち贈りし厚着我まとひぬる

勝浦　永島　計七
わが腹を圧し診る主治医の表情を判じかねつゝきびしき心

大濠　江崎　琴子
青竹の建仁寺垣すがすが春待つ庭に梅もほころぶ

田島　力丸　登
何事と父兄のつどひ行き〻見れば生徒の寒行聞きてなやまし

深田　中野　節子
つかのまに二十年は来ぬ倖せを謝しつゝ吾頃に晴れ暮きせやる

吉田　占部　由久
雅やかな朗詠の声流れ来御歌会初めの放送に耳傾くる

武丸　立石　昇
子や孫ら帰りし後は台風の去りたる如し妻と書読む

吉留　高山　功子
雨だれの音を聞きつゝ夢うつゝ朝寝を楽しむたまの休みに

東郷　藤崎　辰子
持ちかへり子らにも見せむおがたまのこぼれ実拾ふ神のみ庭に

吉留　山下しずえ
見上げたる目にはとまりし夕月の細けく匂ふ春の訪れ

平井　河野　静子
風気味で床につきたる朝食に熱き味噌汁吾子は運び来

吉武　高山徳七郎
馬になり相撲遊びに西部農業の対手に疲れはてたり

香椎　桜井　秀
希ひ水き自田の時間フルに持ちてこの空虚さは何処より来

〃　桜井　ツ子
この碾につながるなべて忘れねどけふ花の鉢据えて眺むる

南郷　井上陽之助
除夜の鐘一つひとつに今年一年を記書かむとふるひたつわれ

福岡　林　まつえ
ふちは氷る流の中に紙すきはうぞさらしき足赤くして

村山田　金丸　柳蔵
幾十年ぶりに吾はしたりし宿直の除夜の鐘聞きぬ六十三となりぬ

宮田　片山　朔子
田の溝を浚へ終りて芹摘めば濁みし水も早や温みぬて

武丸　原田　松代
屠蘇の酒を神社の御紋の盃に新年祝ひぬ孫の酌にて

〃　原田　リノ
舌を出す孫あり大せいに囲まれて撮りたる吾の微層の写真

旧正月祭賑わう

二月十三日　午前九時　高宮祭斎行
二月十三日　午前一〇時　総社祭斎行

旧正月の朝は暁鬨を彩く鶏鳴と共に明けた。

参拝の第一陣は、直方方面よりバス五台を連ねた団体、その数約二〇〇余名。

午前九時高宮に鎮り座す神霊の大前に於て祭典が行われ、次で午前十時総社拝殿に於て小野権宮司以下祭員十名厳として列をなし旧正月祭が執り行われた。

「旧正月の元旦の朝日の豊栄昇りに御賀の寿詞仕奉らくと」斎主の祝詞が奏り、郡内六万郡民を代表して村上氏子会長が玉串奉奠を行い祭典は滞りなく終了した。その頃、神門前の境内広場には、トラック、バス、乗用車、大小無数の車がひしめきあい新正月を陵駕する景を呈した。

明治六年、我国で太陽暦を採用するに伴い、太陰暦による正月は公式には行われなくなったが、農漁村あってはなお生活に便利な旧暦による正月を行い、地方によっては、新旧の折衷案として二月一日を正月と定めている所さえある。戦后国内では農漁村の都会化は整理警戒の人員も増加しなくてはなりません」

旧正月の一週間は連日の参拝者で賑わった。昨年の様な大雪でなかったことも影響していたと思われる。

さて、田島駐在所宮地巡査曰く「今年の旧正月は近来にない落況でした。この分ですと、来年からは社の賑いをみれば民衆の間には旧正月に対する限りなき郷愁がある様に思われた。これを指して必ずしも性急なる近代化に対する反動とも云い切れないものがあるのではなかろうか——。

絵馬額奉納

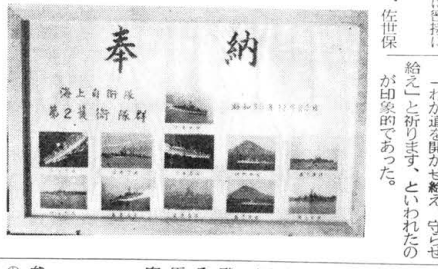
—海上自衛隊第二護衛隊群—

海上自衛隊第二護衛隊群の艦艇に参拝していただいており、黙々と海上の守りについている海上自衛隊と当社との関係は密接に続いている。

さて客年十二月十一日、佐世保地方総監山下雅夫海将が特別参拝をされた。その時も当社との交渉などについて大層喜んで居られたが、更に十二月二十日、佐世保の海上自衛隊第二護衛隊群司令佐藤文雄海将補以下三名が特別参拝をされた。特に十数隻の令下部隊艦艇の写真を入れた大額絵馬を持参奉納された。過去二年間御神恩のお陰で全艦の安全と任務の遂行に支障皆無であったことに対する報恩の意味である、ということであった。絵材の枠も部隊内で手作りされたものであるという。その上更に、一行が正式参拝、佐世保全艦艇乗組員が日頃から心掛けて貯金された初穂料をも集めて奉献された。その額は数万円にも及んだ。

佐藤海将補以下は参拝後社務所斎館に於て久保宮司と歓談した。その中で海将補が神拝の心境を「われが道開かせ給え、守らせ給え」と祈ります、といわれたのが印象的であった。

海上自衛隊の全艦艇に当社の神札が奉斎されていることは、曾て本紙上で報道したことがある。その後、神津宮現地大発には佐世保地方総監部の好意により一部の



神意を良み、神恩に報ずる心構えをもって奉納されたこの絵馬額は、当社に永久に保存されて神威

拝祈願の際には、佐世保全艦艇乗組員が日頃から心掛けて貯金された初穂料をも集めて奉献された。その額は数万円にも及んだ。

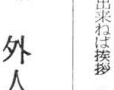
佐藤海将補以下は参拝後社務所斎館に於て久保宮司と歓談した。その中で海将補が神拝の心境を「われが道開かせ給え、守らせ給え」と祈ります、といわれたのが印象的であった。

宗像談話室　外人兵と火吹竹

終戦直後の九州の或る漁村風景、近くに駐留した外人部隊の兵隊たちが、この漁村に遊びに来る。

純朴で平和な漁村も、かって見たこともない外人兵の出現で、トンチンカンな非喜こも〴〵の様相を見せる。路上で外人兵に話しかけられても、チンプンカンプンわからない。そこで部落の物知りにその時の返事のしかたを教えてもらった。ノーと言えと心得第一課を授けられた。「私はノーでございます」と言えばよい。それでは先方に通じません。そんなら「ワチニンコキンテ」と逆様に言え。どうせ逆様の世だ。

「外人兵が泊ろうと言い出した。どうしましょう」いくら物好きでも汚い家に泊るものかと隣家の主人は苦笑い。英語が出来れば挨拶が成立（？）して帰りかけた彼は「アーシタ、アーシタ」と五回繰り返して言う。そんな英語はないと大学生は首をかしげた。後でようやく謎は解けた。日本語の明日で、これを五回数えて五日先に品物を受け取り



外人兵が物を買いに来た。偶々に来ると云う意味。外語と日本語と交錯して、情報将校の暗号解読に似た思考。そして落語家の落しも出来ぬ。途中で出会って何と言ったものかと主婦連の相談をうけた村の古老。テンキコンニチワとは飛び出して隣家に駆けこんだ。その店に寄寓していた大学生がその応対に当った。ほゞ完璧の交渉でした。こうした一連の珍談を耳にして「アーシタ、アーシタ」と大笑わぬ老人もあった。物量の戦に敗れたとは云え、大切な国土を外人兵の軍靴にふみにじられた現状を黙視するに忍びすと嘆じた。身体に悪いと知りながら、毎日酒のかわりにメチルアルコールを飲んで憂悶を忘れようとして、遂に祖国の今日の復興を見ずに死んだ。戦物を受け取り

外人兵が泊ろうと言い出した。偶々に来ると云う意味。外語と日本語と交錯して、情報将校の暗号解読に似た思考。そして落語家の落しも出来ぬ。途中で出会って何と言ったものかと主婦連の相談をうけた村の古老。テンキコンニチワとは飛び出して隣家に駆けこんだ。

明日また遊びに来るという意味で、ツモローの挨拶。驚いた主婦は飛び出して隣家に駆けこんだ。

宗像大社　三月祭

一日　月次祭　午前十時

二日　孔大寺神社祭　午前十一時

——境内末社松尾神社に於て——北筑宗像、粕屋、糸島福岡一社氏組合の主催により醸造新酒を捧げて感謝祭が行なわれる。この祭は先に一月十九日のつくりこみ祈願祭の奉賽（お礼）祭である。

ちなみに、当大社の御祭神市杵島比売命は酒造り護の全国総主宰神にまします。

二一日　春分祭　午前十時——皇霊殿遙拝式

俗に彼岸の中日にあたる。宮中では春季皇霊祭が行なわれる。一般家庭に於ても、この春分の日を中心にして祖霊を祭り、子孫としてのまこころを捧げる。

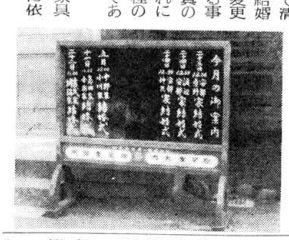
三月の交通訓

○祈った心を忘れるな

清明殿に案内板を設置

近頃、結婚式の増加に伴なって清明殿の利用回数が多くなり、特に結婚式は人数が多いので、挙式の変更の場合等出席者に迷惑をかける事が多かったので、当社では写真のような案内を板作製した。これによって結婚式だけでなく、諸種の会合にも利用されるので便利である。

尚、これは宗像町東郷、力丸家具店、及び米田家具店の御好意によって出来たものである。



社務日誌抄

一月六日　福岡県交通安全協会参拝。好天に恵まれ、国鉄関係者の参拝多くなる。

九日　片岡貴任役員参拝。

一〇日　境内末社恵比須神社祭斎行、玄海町商工会参加。海上安全大漁満足祈願祭斎行。

一一日　伊藤設計事務所所信正氏来社。若松機関区二十数名来社

一二日　午後一時献詠歌会、佐賀羽衣奉仕会約七十数名参拝。

一三日　午前十一時献米奉告祭斎行。

一五日　玄海町公民館主催による成人祭斎行。参列者三三五名。

北九州アデカ石鹸会社三百名参拝。境内に於て福引を行う。筑後市宗像奉司会二百名参拝。

一八日　県教育長紫農氏外一名来社。職員会議、社務報告、予算編成其他。

二二日　文化財防火演習打合せ会

宗像大社御用　綜合印刷
有限会社　大和印刷所
宗像郡宗像町東郷　電話東郷27番

お手洗が完成

一寸下の話題で恐れ入るが、当社結婚式場として利用されている清明殿脇のお手洗は、参拝者の利用頻度が最高で、いつも満員御礼である。従って汚れ具合も一段とはげしく、この為参拝者からしばしば苦情が持ちこまれていた。そこで此度前施設を破してコンクリートブロックのものを新増築、先頃完成した。

発揚の象徴の一つとなることであろう。そして、この誠心溢れる絵馬額を奉納された自衛艦の人達の安全と繁栄を祈りたい。

宗像四郎氏貞（十三）

山下半可　作
福田長庵　画

胎動（一）

宗像側では、かくてはならじと石松但馬守宗季、畔口伊予守益勝をして、その上更に然るべき偉大将を一人宗像に差し遣わされたい、もし所えられるならば郡の西方の何津城、その侍大将を入れて置いて、赤馬の村三百町、古物、神崎の二百町も軍用に充てるつもりである。そうなれば許斐城を中心として宗像郡東西の陣備えも〆全たる故是非とも所望したい旨を申し入れた。

義隆はこの面使を引見して「宗像は多年当家に対して軍忠に励みたる段浅からず、神妙である」と喜んで褒賞を数多く賜った。

「氏続の謂う所にまかすべし、矢張り縁類がよかろう」

義隆の指命したのは、近習相伴衆をつとめていた黒川刑部少輔隆像こと氏男であった。

これだけの備えが出来ては敵も迂闊には攻め懸けるあたわざるべし。間軍は暫く動くこともなかった。

さて、隆像は己れの存在を過大視していた。尤も氏続には我が子に急場を助けられた弱味がある。その上名残城の軍用として合計六百町を充当してしまったことにも心に残るものがあったかも知れない。隆像が前大宮司正氏の猶子であり、また大内近習の臣であることを意識して少々尊大に振舞ったこともよくなかったのであろう。

氏続は現に宗像の大宮司職である。隆像は当然次代の大宮司職になるべき人物であった。感情的な行き違いから不慮の事態が発生しかねない空気になった。宗像の家臣たちが心配した。石松加賀守口に引き揚げた。よって、大内義隆は代官を宗像に下した。それが筑前畑ノ城主香月兵部少輔興の次男次郎左衛門隆光であった。

隆像の去ったあとの名残城には良喜入道が入った。香月隆光は改めて西郷の城に入ることになった。これは近年粕屋郡方面から立花、高橋らが宗像を窺う公算が多いからであった。

ここ暫く平穏、といったのは右の事情による宗像の現状のことを指したのである。

家族知族でも油断のならない時代であった。これは縁につながる宗像大宮司家の中に於てさえもこの事実を否定することはできなかった。そして次、宿怨の仇敵である豊後の大友家もその例に洩れなかったのである。

今年天文十九年、大友の当主義鎮は代替りをしたばかりであった。彼は初めの名を五郎といい、八郎という舎弟があった。

これまの先天文十六年に父の義鑑は上洛している。時の将軍は足利義輝。義鑑が機嫌奏伺に行くと、喜んだ将軍は直ちにこのことを朝廷に上奏して、義鑑を従三位に叙する様取り計らった。このことは大友家になってからは初の栄誉であった。もともと大友家は源頼朝の藤原不比等七代の後胤侯藤太秀郷の出自で、さらに十代に当る左近将監能直が鎮西に側近として仕えたが、実はこの能直は豊州の藤原泰衡退治の時に高名をあげたりしたので、後に豊後を宛て行われて「鎮西奉行」となった。さらに七代経って式部亟氏泰は吉野朝の時に九州に下った足利尊氏に忠勤を尊んだ。義鑑はそれより更に十二代の後胤にあたる。いま義鑑が従三位に叙せられて九州の守護職として威勢を振ったのもそういわれがあった事によるのである。

さて、義鑑は弟の八郎を愛寵した。兄弟は腹違いであった。弟の八郎を後嗣に立てようとする家中の者らによってさまざまな策動がなされた。一部の重臣は義鑑を諫めた。所が愛する八郎のために義鑑がそれを聞こうとしなかった為に一味する者らが輪姦になって漸く五郎義鎮が浮び上った。

好むと好まざるとにかかわらず人には現世に負わされた宿命がある。五郎は時を移さず家中を整理した。彼は非凡の器であった。家督相続後の豊州は小揺きもしなかった。彼にとっては、自分が立つ為に親兄弟が犠牲になった事などは一片の感慨に過ぎなかったのであろうか。

中国大内家崩壊の潮し、筑前筑後の対時、丁度そんな時代であった。

（つづく）

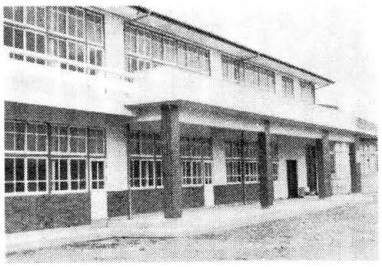
宗像郡……大島中学校竣功式

……永年の村民の願いここに実現……

去る二月十七日、宗像郡大島村、大島小中学校の竣功式が厳かに執り行なわれた。

先頃まで暖冬異変で四月頃の気温であった大島も、寒波の襲来で冬に逆戻りし、当日は気温が低く、玄海の寒風が肌を刺すように痛かった。

午前十時、新装成った校舎前に小中学校生徒五百余名が整列し、大島村長を始め、関係者参列のもとに当社黒木権祢宜、太田権祢宜の奉仕によって竣功祭が始められた。



大島中学同じく小学校の学舎を亦給食室を築り建むと、去年の九月三十日大地鎮めの神事仕奉り乞祈奉りし、験も著しく（中略）飛躍の工の打つ墨縄の只一節に於う事なく遂つ事なく自出度く美わしく事成し、……新室寿きの言寿を仕奉り真を奉る様に称え奉る事の状告け奉らくと…祝詞の後、而学校長の玉串拝礼にあわせて生徒達の小さな手が鳴り渡った。

正午より新校舎の二階で式典が行なわれ、大島村長は其の式辞で「旧木造校舎は明治三十二年の建築で、爾来七十年の星霜を経て三千余名の卒業生を出し、私達島民の唯一の教育の場として、貢献してきたものであります。卒業生の皆さんの喜びも悲しみも淡い思い出として、その中に数限りなく秘められていたことと思います。しかし、その思い出深い校舎を寄る年波には勝てず、老朽化し、危険校舎となり、更に戦後の新しい教育の場としては狭隘でもあるので、毎年行なわれる学校環境衛生巡回指導の課題に待つまでもなく、改築の要請切なるものがありました。……」

と感慨深そうに述べられた。この後、経過報告、感謝状贈呈、来賓祝詞があって式典を終了し、講堂でなごやかな祝宴が続いた。

工事報告によれば、昭和三十七年に小学校改築の案件が村議会に提出され、満場一致で可決。翌昭和三十八年度当初予算に於て小学校危険校舎の改築、中学校特別教室新築の議決がなされ、其の後給食室の新築も併せて実施する事となり、小学校老朽校舎一五二坪を取毀し、その跡に小学校六教室、及び便所、中学校特別教室二教室並に給食室の建築をする事となった。設計は郡内津屋崎町室井氏にかかり施行は松崎組が当った。

昭和三十八年八月工事に着手、九月には校舎を取毀し、基礎工事鉄骨組立工事とその進捗を見て、此度小学校々舎鉄骨造り、二階建一九七坪六教室、上下便所、玄関、テラス、中学校特別教室鉄骨造り二階建六坪、特別教室二教室、普通教室一教室、小中学校共同調理場木造平屋二十三坪が工期一六四日間を費して竣工した。総工費一千六百二十五万四千円であった。

昭和三十八年度村予算総額が三千百五万円、其内一千六百万円、約三分の一を学校建設費に宛てた村財政は大変なものであった。村民の熱意がここに立派に実を結んだものというべきであろう。

町村往来

◇郡青年団友好祭…2日午前9時、福間中体育館。

◇寄付…玄海町神農協信用主任山路芳男さんはなくなった妻のマサ子さんの香典返しとして金一封を岬小の図書施設費に寄付。

◇福間保育園の開園式…1日午前10時。

◇新生活推進報告会…1日午後1時、神興小。

◇少年剣道けいこ始め…8日午後2時、神湊小。神湊校区では一昨年末から青少年不良化防止のねらいで校区内少年の剣道を開いていたが、こんど新しい剣道具十組を備えつけたのを機会に本格的なけいこに入ることになった。

◇料理教室…14日午前10時、福間公民館。上西郷校区婦人会が実施。

◇旧正月のモチをプレゼント…18日、勝浦小学校の学生代表男女十二人は遠賀郡岡垣町海老津母子寮に慰問金を贈った。

◇吉武小八寄付…吉武小の元PTA会長高山春巳さんは亡父高山源吉さんの香典返しとして同校の施設費に金一封を贈った。

◇宗像町青年団グループ発表会…23日午前10時、町村会館二階。写真、音楽機械などの同好グループの一年間の成果を発表。

◇剣道早段試験成績…剣連宗像支部の早段試験は22日宗像署道場で行なわれ三十八人が受加した。

◇郡青年団グループ…一年間の実績を報告。

◇津丸駐在所七とう式…1日午前11時から福間町津丸の現地で県住宅協会の津丸冠団地建設を考慮、神興農協横から国道沿いの現在地へ移転することになり、昨年冬から工事中。3月完成の予定で、国道三号線の交通取り締りにも威力を発揮する。

◇養老院慰問…5日津屋崎町勝浦校区婦人会小沢きよの会長ら十三人がおコメやお菓子をもって宗像緑風園を慰問した。

◇勝浦小と同農協支部を津屋崎電話局管内に…これまで勝浦小、同農協は神湊局に属して同一町内でありながら津屋崎局内の同町役場などからは市外扱いの不便をかこっていたが新年度からは津屋崎局内扱いとなる。3月末までに工事を完了する予定。

消息

毎度宗像誌を送って頂きまして感謝しています。

郷里ではまだ寒さがきびしく凌ぎがたい事と遥察致します。

折柄本局の皆様御健勝の事何よりも結構に存じ上げます。

近頃日本と米国とはいろいろな方面に於て非常に接近して参りまして、お互いに理解し会って行く事に努めているようです。

今月中旬には東京相撲二行六十名が渡米して親善興業をする事になっていますので張り切っています。兼て誌を通じて承知しています宝物館建設に関する寄附金第一回分を別紙の通り送金いたしますから、御受納下さいませ。それから宗像誌は目下のところ余分ですから其積りで御送り下さいますよう願います。久保宮司はじめ御一同様の御健康を祈ります。宝物館

寄附芳名は次の通りです。

玄海町多孔　早川　嘉三氏
玄海町池浦　福光氏
〃　〃田島　安部亦三郎氏
〃　〃池田　森内平五郎氏
福間町八並　小田　議氏
宗像町平井　玄海町田野　福間町八並　福間町西郷　〃　〃津丸　〃　〃津丸　〃　〃久末　玄海町田島　〃　〃江口　福間町西郷　宗像町王丸　以上十六名各位五弗宛計金八十弗
石命額を当地住友銀行を通して送りますから何卒よろしく御取り計い下さいませ。
在米　中村次郎平
松本いち夫人　玉城　夫人　小田勝三郎氏　結城　夫人　古賀　五郎氏　浦野かおる氏　森光　妙子氏　中野平次郎氏　石松　幸三氏　力丸　岩輔氏　中村次郎平氏
以上十六名各位五弗宛計金八十弗
石命額を当地住友銀行を通して送りますから何卒よろしく御取り計い下さいませ。
在米　中村次郎平

水しぶきのオンパレード

——文化財防火デーに因んで——

夫る一月二十五日、文化財防火デーに因み当社に於て防火演習が行われた。

これは昭和二十四年一月二十六日に法隆寺が罹災した日にあたるのでこの日を文化財防火デーとして全国的にこの運動を展開しており、県下では筑前地区の代表として当社が指定された。

其筋の要項に依れば、文化財の所有者、管理者、防火管理者等の関係者に対して地元消防機関の協力及び指導を得て適切な指導を行い、平素の火災防火予防の万全を期すると云う事になっているのである。

この趣旨に則って実施されたものである。

午後二時、宗像大社楼門横神札授与所から出火。火は忽ち同建物を全焼して拝殿及び本殿に移らんとしていると云う想定のもとに午後二時、発煙筒がたかれて当社応員消防団がかけつけ、消火器やバケツで消火活動が開始された。午後二時五分通報を受けた玄海町のサイレンが鳴り渡った。かくて町内全消防団に緊急出動を要請、各地より消防車が陸続とかけつけ境内の心字池より採水して放水を開始、水しぶきのオンパレードを展開して参拝者を喜ばした。

午後二時四十分鎮火。この後、境内に於て全員整列、係官の講評久保宮司の挨拶があって無事終了した。

鳴呼！前田裔之助老人

前田さんが亡くなられた。長い間沖ノ島に勤務して白髪の仙人〝のような生活を送っておられたのに、惜しい人を失った。

前田さんが宗像大社に勤務する様になったのは、昭和二十八年四月十九日であった。爾来、満十年の悠々自適の生活が始まった。朝夕の祭典奉仕の余暇には長い急坂を登り、雨の日は書斎の奥余の春秋を沖ノ島に過されたのであった。

沖ノ島に勤務する様になってから前田さんは一つの念願を立てた「十年間の御奉仕をしよう」

かくて当時六十七才の前田老人は来る日も来る日も海と空とか見えない沖ノ島に住みついた。

余生を沖ノ島に捧げた前田老人の悠々自適の生活が始まった。朝夕の祭典奉仕の余暇には長い急坂を登り、雨の日は書斎の奥余の春秋を沖ノ島に過されたのであった。

沖ノ島に勤務する様になってから前田さんは一つの念願を立てた「十年間の御奉仕をしよう」

前田老人の家は太宰府町五条にある。留守宅には一人の奥さんが居られた。奥さんが御主人を励まし協力された。百貨店につとめている御子息もあり、留守宅の心配が全然無かったことも前田さんの勤務の上にプラスとなった。

十年間、それは云うべくしてやさしいことではなかった。一年に二十日間程休暇をとって帰宅した時の留守宅は「おじいちゃんおじいちゃん」と町田老人を呼び回るお孫さんで賑わった。髪を引っぱったり背中におんぶしたりする小さいお孫さんに前田さんの顔がほころびるのが常であった。

前田さんは一面厳格なところも影響を与えていたのであろう。

十二月三日、前田老人は朽木が自然に倒れる様に亡くなられた。その約一カ月程前から前田さんの身体が急に不調になった。寝つく事が多くなって食事の仕度も思う様にならなくなった。驚いた灯台勤務員たちが親身も及ばぬお世話と看護をして下さった。大社でも直ちに交替員を派遣して、前田老人享年七十七才であった。

喜びも悲しみも遂年月。沖ノ島奉仕十年間の満願の日昭和三十八年

「帰った翌日から、早く用を済ませて帰らなくては、というクセとなって」

と家族の方が話しておられた。

前田さんは二面厳格なところもあった。たまの休暇に帰宅しても心はいつも沖ノ島にあった。

「帰った翌日から、早く用を済ませて帰らなくては、というクセとなって」

と家族の方が話しておられた。

私は思い残すことはない。皆さんによろしく、有難う、有難う」

実に静かな生涯であったということであった。

十二月六日、葬儀の席上、老人が生前詠んだ歌が霊前で読み上げられて、新たな涙をさそった。

○千早振る神の結びし此の縁組　栄え行かなむ千代萬代に

○孤島に居て楽しき事の無い時　に孫の送り来し菓子の嬉しさ

○白馬の駆け来る如き沖ノ島波　の言葉の面白きかな

享年七十七才であった。

療養生活は一進一退。しかし老人の心は平静そのものであったという。やがてその死に寧んで

「あとのことをよろしく頼む。私は思い残すことはない。皆さんによろしく、有難う、有難う」

は入院した。

新築完成

——玄海の味・生魚料理——

みなと荘

宗像郡玄海町神湊
電話　神湊　五六番

宗像伝説　其の三十六

鐘のみさき

鐘崎は現在の宗像郡玄海町にあり、突端は織幡神社の鎮座せられる岬の半島になっている。

半島の小山を佐屋形山という。その佐屋形山の半島状の所から西寄りの上八（こうじよう）部落に近い所約一粁人家の町並が続いている。昭和三十九年一月現在で人家は約七百戸、人口は約三千余人を数える。

鐘崎の初見は萬葉集巻七に「金之三崎」とある。続日紀神護景雲元年の条に「金崎船瀬」。類従三代格寛平五年太政官符に「宗像郡金崎」。寛喜年間宗像文書にも「孤島を鐘御崎に築く」と見える

「御崎」とあるのは「岬」であることを示す。

「かね」というのは、鐘にまつわる伝説からいうものや、附近の潟川山から産金した故事からいうもの等いろいろあるが、何れもはっきりしない。唯もはっきりしたことは、上八部落の潟川山寄りの高い所から見ると、佐屋形山がいかにも吊鐘をこうくりの形に見えるということである。或いは、古人の呼称は案外この辺に由来したものかもしれない。

さて鐘岬に関する文学を見よう

万葉集巻七に海路難渡のさまを

○ちはやぶるかねのみさきをすぎぬともわれはわすれじかのすめがみ

新古今集巻六に、衣笠内大臣

○日波の岩打着やひびくらん鐘の御崎のあかつきの空

家集に、俊頼

○おとに聞くかねの御崎はつきもせずなく声ひびく渡りなりけり

新続古今集に、正三位義重

○聞明す鐘の御崎のうき枕遠路も渡る遥夜隔てん

延宝三年大宮司（宗像）氏重、織幡山に游びて作詩（漢詩）

織幡何之美仙宮たる

霊徳吹き伝ふ武内の風
山下の岩松北直に連なる
海蓮石壁西に向って従ふ
片帆来往す鶴離の浪
孤雁翔翔す鶴離の霧
幽賞心関かにして外の事無し
眼前画き出す一奇峯

新題林集に、近衛関白信尹公

○人とはゝわれはわすれず云てましかねのみさきを過かてに見て

後拾遺集旅の部に「つくしより上りける道に、さやかの山と云所を過ぐ迚、読侍る」として（夫木集にも）右大弁浦俊

○あなし吹く迫門の潮干に船出して早くぞ過るさやかたの山

同　惟明親王

○あなし吹くさやかの山に雲晴れて月影たゝむ迫門の白波

同　中務

○夜舟こぐ迫門のしほひをよそに見てつきにぞゆるさやかたの山

右のように見える、鐘崎の突端より海上約二粁を隔て地島がある。この線より東側の海は玄海灘といい、西側の海を玄海灘という。

佐屋形山に鎮座せられる織幡神社は武内名神大社で、宗像大社の旧摂社でもある。山の一帯は「イスマキ」原生林で、旧本殿裏の往古の神離に相当すると思われるイスマキは樹令千七百年を数える巨木である。全地域県指定の天然記念物になっている。神功皇后三韓征伐の折りの由縁によって御建になった御社でもあり、附近の白砂青松と相まって、大宮司氏重の詠嘆した姿はそっくり遺存されている。

宗像郡の中でも此の岬と海岸線が一帯の開発と相俟って「名勝の鐘崎」「文学の鐘崎」として喧伝される日も遠いことではない。

（H）

宗像大社献詠 俳句作品集 (七)

津屋崎　占部　河童

雪を来しむし鬱だけの口押す　香立喜一郎

〃　雪降って棚の人形女となる　吉野　享志

〃　枯芝で戸越しのシャンソン聞き流す　大久保一仁

〃　剃り上げし屋敷のうなじ雪降りだす　勝田　光一

〃　時計に灯が入り少年寒い階昇る　渋田しげを

〃　寒満月干潟の金容人魚かず　増田　武光

〃　母のように潤れて未明の冬樹立つ　安部真佐子

〃　綿の雪まつ毛に付けて王冠抜く　井浦　良介

〃　抱擁の前後にも降る春の星　西住喜三郎

〃　指輪なき手の荒れ通し冬終る　毛利　夜潮

〃　建学の人みな物故碑ぬくし　山口　篠田　南城

落つる日の刻火となり雲の峰　東郷　小野　花居

節分の声高らかに路地狭し　小野　淡坡

〃　落花生キャラメルもあり豆を撒く

企業に於ける人つくり (六)

出光佐三

それから中支は下の方の配給業務を出光がやっておって、上の組織は出光から二人、役人が一人、合計三人でやっておった。同じ数量を、満州では専売、北支では二百人以上の人で、中支では三人でやる。こういう極端な例がでてきたのです。われわれから言えば、法律、機構、組織によって人の働きを止めちゃいけない。人が第一線で働いておれば、その上の統制というものはきわめて簡単であるべきものであるというのが出光のやり方であるから、この実態を示して出来上ったのが、いま言った時計に灯が入り少年寒い階昇る「人間の真に働く姿を現わして、国家・社会に示唆を与える」という言葉です。現在ではこれが出光の信念上の定款ということになっている。

7、人権尊重と人間尊重とは違う

さらに人権尊重と人間尊重とは違う。いまは人権を尊重することのようにやもすれば誤解されておりますが、これはぜんぜん違う。人間が権利を尊重することと、人間が人間そのものを尊重することはまったく異なる。人権尊重ということは、これは「物の世界」に出来たことである。いわゆる権利ということは、物の分配をやるのに権利を主張するということで、これが個人主義のだいたいの骨子であります。したがって「物の世界」から出た人権であって、それを尊重することは物を尊重することであると、間接的に言えば言えないこともない。ところが、人間尊重は、人間が自分を尊重し、他の人間を尊重するということである。このような三つの言い方がありまして、これがやはり「人の世界」と「物の世界」とをはっきり区別しておるようであります。

8、奴隷から解放されよ

それからもう一つ出光で言うことは、奴隷から解放されようということなんです。まず第一は私が学生時代から卒業後もずっと言ってきたことですが、黄金の奴隷になるなということ。それからその次のには戦時統制時代に法律、機構組織をつくって、そして人間の働きを止められた。これにたいして法律、機構、組織の奴隷になるなということ。それから三番目には終戦後、権力万能の時代でありますから、権力の前にはどうにもしようがなかったんでありますが、その奴隷になるなということ。占領軍のもとに外国の石油会社が権力を発揮して、あらゆる圧迫を加えましたが、出光はそれに反抗して、今日民族経営の会社としてただ一つ残っておる。これは権力の奴隷にならなかったということなんです。それから現在世の中を見てみますと、屁理屈を並べて、これを数で押し通す。人間の世の中で正しいことが通らないという時代です。いまは数と理論の奴隷になるなということを言っているわけです。

私どもが石油業を営むにあたって、じっこに残念なことでありますが、いかなる場合でも政府と闘えということを言っておるんです。終戦後、私が社員に言ったことはわれわれは正しい道を歩いて国家のために働いておれば、必ず政府がこれを助けてくれる、そういうことを私が言って、若い連中を鼓舞したものであります。ところが一、二年たつうちに、政府はわれわれを助けるようなことはやらない。やらないのみならず占領軍の権力に服して民族経営である出光をいじめてばかりいた。そこで私が次に言ったことは、政府の助けを求めるなんて、そんな卑屈な考えはやめて、政府の援助なんかはあてにするなということである。ところが、その後も政府は出光をいじめてばかりいる。このままではいけないから、また私は言うことを改めていつでも政府と闘うだけの実力を養成しようと、このように言うことを二度改めた。現在は二の宮となっていたので大体一国に一社の一宮があり、それが殆んど国幣社になっている。別格官幣社は楠公の湊川神社以下二七社といわれる丈にこの両地域に大社が多いのも自然の勢で、全二一〇社の官国幣社の中で九州二七社、近畿地方の六三社で、全部の四三パーセント弱を占めて居り、就中福岡県には九社の官国幣社があるほど沢山。これは昔、アチエがオランダ軍と戦った時に作られた秘薬です」と説明して徐々に塗ってゆく。それから残った皮が動かぬように白いコヨリで巻くしばって棚帛をした。私は仰向けに寝かされた。サロンが虫口に当らぬように下腹部のサロンの一部をつっ張ってくれた。

「日本人は勇敢だ」彼等は口々に賞めてくれた。だが出血はなかなか止まらない。ぴっしょりと滴れている。すごい出血である。黄色に染められた餅米が私の頭上に撒かれ、床の上にもまかれた。皆んなは部屋の中に坐って祝い物を喰べ始めた。私は喰べる事を許されなかった。

割礼も大人になると中々、骨が折れる。この様に、チルクム、チジオンは無理である。ドルザーレ・スパルツングをやる可きであろうが、原住民のトッカン・スナでは出来ない。医師でも中々、包皮が左右平等に切りとれないとみえて、某政治家が、ドルザーレ・スパルツングをやって貰ったが、結果、皮が右にかた寄っていた。この政治家は面白い男で「だから僕は、自民党じゃ」と云って皆を笑わせた事があった。

神詣でのあれこれ (三)

片岡道信

官幣社は天津神又は天皇を祭神としているが只例外として天満宮がある。これは祭神が准皇に列せられた為と思う。官幣社は皇室が幣帛を捧げられ、国幣社は国神祭と、小祭は私祭といわれている。そして官幣社、国幣社はそれぞれ大社、中社、小社と勅定で社格を定められた。

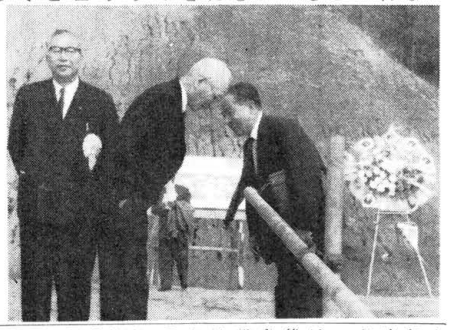
終戦前迄は官幣大社五八社、同中社二六社、同小社五社計八九社で国幣社は大社六社、同中社四七社、同小社四一社計九四社で予算の冒頭に神社費のあったことを思い出されると思うが即ちこれである。府県社以下村社までは府県市町村がそれぞれ行ったもので、終戦前村会議員以上の議員になられた経験をお持ちの方はそれぞれの歳出の第一欵第一項第一目と予算の冒頭に神社費のあったことは今迄申した事でお判りと思う。

○社にのぼっていたのである。此処で注目すべき事はこれ等大きな神社と、その分布状態であるが、日本文化の発展に深い関係のあることは今迄申した事でお判りと思う。特に福岡県には国幣大社高良神社がある丈であとは官幣社、所謂天津神の多いことも日本文化発祥の地ともいえる。

以上大変固苦しい事を述べたが、私が巡拝した二〇社の内から印象に残っているあれこれを申上げたい。

神社建築や、鳥居のことなど、特殊な専門部門なので、門外漢の私ではとても説明出来ないので、文献に寄り副うとゆうか、それを御神燈として、私なりに稿を進めて見たいと思う。

先ず神社の建築様式であるが神社建築本来の特徴とする処は輪郭は直截簡明で繁縟な装飾的手法を黜用せず全然植物性材料のみによって造営せられている。所謂神明造、大社造、住吉造が、これである。仏教渡来後仏教建築の影響を受け支那趣味を加えることになったが然し我等の祖先はその天賦の才能を以って支那趣味の形式手法を換骨脱胎して別に一種の霊妙な国民的様式を大成した。即ち春日造、流造、八幡造、日吉造、祇園造、吉備津造、香椎造、権現造等千変萬化を以って今日に至っている。



（写真中央が出光社長）

宗像藪庵先生百話

スマトラの衛生的土俗 (六)

宗像太郎坊

「お許し下さい」割師は私の手を取って詫びた。何の事かわからずにいるとイマムが「はい」と云えと云うので「はい」と答えた。後でわかったが同教徒は他人の躰に傷をつけ血を見る事は禁じられているので、私に傷をつけ血を見る事は禁じられている。

「日本人は勇敢だ」彼等は口々に賞めてくれた。だが出血はなかなか止まらない。サロンが虫口に当らぬように下腹部のサロンの一部をつっ張ってくれた。

強烈な香を放つ黒いいばばはした油剤が傷口に擦られた。飛び上がるほど痛い。「これは昔、アチエ

マンデー（水浴）

南洋の人達は毎日水浴をする。恰も水浴を好んでやっているようにさえ見える。一番簡単なのは、スコール（驟雨）がやってくると戸外に飛び出して、キャッ、キャッ云いながらシャツの上から手で擦っている。マレーでは地面で家根のスコールを受けて、矩形のセメントで作った水槽に溜めている。私達は家人の逃げた後、家に泊り、水浴や炊事にこの水の御厄介になったものである。暑い国の雨水を溜めた水だと思うと、最初は何んだか気持が悪かったが、異常のない事がわかってきた。暑い国なので沸かす必要もないし、又原住民にとっては金のかかる薪や燃料の問題もあり、多くの人達は原始的に井戸水をかぶったり、川へ行って水浴したりしている。この水浴は体を締麗にする外に、我々と違って宗教上の規制からでもある。インドネシア人の大部分が信仰するイスラム教（回教）には五我があり、第一が清浄（タハラ）で次は祈祷礼拝（サラト）である。清浄とは儀式的沐浴で、この沐浴はモーゼの十戒よりきている。小タハットは顔、手、脚を洗う事のみで清浄の目的を達する事ができ、大タハットは全身の沐浴によって浄化する。

次号予告

次号より第四面に「あっ常陸丸」を掲載致します。

今を去る六十年前、明治三十七年（日本海大海戦の前年）宗像大社神津宮の鎮座する玄界灘沖ノ島の沖合で我が国輸送船団がロシヤの軍艦に攻撃され間もなく沈没させられた。排水量六千トン。明治年間の造船史に名高い船である。

俗に常陸丸事件と呼ばれ、当時世間の耳目を驚愕させ且又悲憤を買った事件であった。

「ああ常陸丸」は常陸丸を中心として日本海々戦等を併せ記しており、当時の概況を知るに足るものがあります。

本年は其六十周年に当るので、国難に殉じた人々に追悼の念を捧げてこの編を載せたいと存じます。

我楽苦多告知板

（一面より続く）

七草の田芹つみつつ幼き日花かごもちてつみしを思ふ　武丸

立石ろせの試迫り手の影哀し　田島　深田　嘉子

流人宗任果てに跡か五輪の塔八百年の朔風のあと（大島にて）　戸畑　伊規須ゆき

吹雪く日を部屋にこもれば風果てゝ唐突になる雷ひとつ　花田　道子

荒れ狂ふ海の波をさまりて辺津の宮居に春風そゝぐ　新潟　宗像　宗治

名島　久保　房江

庭前の赤きぼけの花咲き初めぬ幼き頃のかんざしに似て　原町　中村　幸

夜半風氷雨は前と変り窓打って入夜より長きこうより居り帰る善子の黄衆に雨ふりしきる　田島　養父　守

朝戸出に煙草點くるが慣ひなり今朝肺癌の記事は読みしが　田島　小野　迪夫

隔離病棟の横を通れば新しく入院せし子の口笛きこゆ　東郷　安部　重郎

父の植ゑし杉の林は緑濃く冬陽に映えて遥しく伸ぶ　東郷　安部　静子

御手洗の水清澄に初詣て遠き子のこと思ひて拝む　楠本　正

〃　朝まだき新聞を配り行く音それを聞き心繋めて起き出づ　戸畑　山磨　昌子

手づくりの野菜もろ手に久に来し故郷の友に老いのきさらぬ　南郷　天野　健一

梅見んと友の便りに秋ひけと酒たちし身の淋しかりけり　田島　宇都宮　弾

ここにして春遠からじきさらぎの指宿の里に早や花の見ゆ　東郷　安部　重郎

WCの俗に云うWの方に誰がカレンダーを貼った。原色で原寸大の吉永小百合という女優が印刷されている。しゃがむと丁度顔が向い合う位置にある。

「とうも具合が悪いねえ。ぱんつ取っておろうす時に気がひける」

「僕は、こんにちわと挨拶をすることにしている」

「うーむ、というとき、ふと目の前の小百合ちゃんに気がつく。じいーっと見ていられるようで、出られ様になる」

「いやいや、僕はかえって晴れがましい気がして爽やかになるがねえ」

わいわいとだらぬ話をしていたら、或る女子職員、

「あたし、同性として嫌だわ」

わっ、と笑い声が起った。

くだんのカレンダーはまだ剥がされていない。